

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077200147		
法人名	医療法人社団 桜珠会		
事業所名	グループホーム可也 桜の里		
所在地	〒819-1314 福岡県糸島市志摩師吉901-3		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果確定日	平成28年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=4077200147-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成28年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、全ての入居者に対して職員は挨拶をして必ず関わりを持つと共に、声掛けや接し方に力を入れ、笑顔が絶えない明るく家庭的な雰囲気づくりを目指している。又、昼夜を問わず、積極的にトイレの声掛け・誘導を実施し、心地良いトイレでの排泄が出来る様努めている。職員側では、日頃からこまめに話し合いの場を設け、情報の共有並びにチームワークの構築に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所方針の「笑顔を引き出す」「いつもあなたのそばにいます」を、丁寧な言葉づかいや節度をわきまえつつも温かい笑顔いっぱいのケアで実践されている。高齢者に多く見られる脱水や便秘への対策として、目標水分量一日1500mlを手作りゼリーなどで工夫をしたり、「昼夜を問わずトイレで気持ちよく排泄する」にこだわっての声掛けや誘導の実践が細かな記録で確認できた。日々の生活で問題が生じたときは、チーフが中心となり、スタッフと意見交換しながら介護の基本や方針に立ち返って問題を解決している。所長は総括的に安心感を与えており、スタッフの笑顔が入居者の笑顔につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会生活の中での孤立や孤独を味わうことのないよういつもそばにいて、少しの変化も見落とさないよう家族のように寄り添うことを中心に考えた理念をスタッフと共に作った。	法人の基本理念である、相手の立場で観て(観察力)、話して(接遇)、考え(環境)、常に研鑽する(知識)ことを念頭におき、思いやりある介護サービスを提供している。どのスタッフも笑顔で入居者に接していて、入居者と信頼関係が築かれている様子がみられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の福祉体験授業の受入れにより地域の子供たちとの交流を行ったり、地域行事や地域の他施設行事への参加などを行い地域への交流に努めている。また年末のご近所への餅配りは定例化している。	地域の小中学生が、福祉体験が出来る場として事業所を提供し、認知症の学習、車椅子体験などのメニューを準備して、地域密着型事業所の役割ができています。夏の盆踊り参加や秋の地域運動会に参加して、外部の方々との交流が出来るように努力している様子が伺えた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉授業やキャラバンメイトの講習会を通して認知症への理解を働きかけたり、当施設への入所だけでなく、在宅維持へのアドバイスを行ったり、困った時は気軽に相談してもらえるよう働きかけている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題はスタッフ全体会議などに連動させ共通議題とすることで意見や提案、改善内容などをサービス向上につなげている。	会議には、家族、自治会、民生委員、交番、地域包括の方々に参加依頼の声かけをしている。事業所内でのヒヤリハットなど包み隠す事無く報告して改善する努力をしていることが、丁寧に記録された議事録で確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の事業所連絡会や部会等により社協や包括および市町村担当者と頻りに顔を合わせることができ、相談もしやすい。	地域内の介護事業所のサービスごとの部会に、月に1、2回チーフが参加して、お互いの情報交換をしたり、防災に関する意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成 身体拘束ゼロの手引きを掲示し拘束にならないケアについて常にスタッフ全体会議等で話し合っている。	事業所開設当初からの姿勢で、所長、スタッフは、入居者の立場になって、身体拘束はしない考えを持ち、行動障害が激しい方の場合も進行度により、医師に相談しつつ対応した経験がある。スピーチロックに繋がる「ちょっと待って」を言わないですむ行動が出来るように、情報共有している。	所長、スタッフは、入居者が点滴を受けている時も、点滴をはずさない様に付き添い、これまでの経験をもとに拘束しない支援が行われているので、「身体拘束ゼロ宣言事業所」として、福岡県に登録することを提案し、今後も経験を重ねていくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待に関する勉強会を行い、高齢者の人権について考える機会を設けている。またスタッフのストレスが虐待につながるようスタッフの些細な変化に気を配るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者のプライバシーと人権、成年後見制度と権利擁護についてスタッフ全体会議でスタッフの理解が深まるよう勉強会を行っている。	現在、成年後見制度を利用する入居者がいるため、スタッフは外部研修で学習したことを伝えている。入居者の状況を「先読み」して、家族に情報発信した成功例を持っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までには十分に時間を取り面談等を行い気軽に何でも相談してもらえる関係作りに重点を置いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せるような関係作りにつとめており、苦情になる前の問題の早期発見と解決を心がけている。運営推進会議や感謝祭等で様々な意見の交流を図っている。	家族の思いと入居者の状態、双方に寄り添うことを実践している。脱水、便秘解消に1日1500mlの水分補給を目標とし、ポカリスエットの手作りゼリー、腹部マッサージなどの工夫でなるべく自然排便出来るようにしている。苦情になる前に何でも話してもらえる雰囲気作りを常に心がけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族同様管理者とスタッフも日頃から何でも話せるような関係作りを目指しており、スタッフ全体会議だけでなく直接電話で相談された内容にも対応している。	現場スタッフから、事業所で使っている洗濯機、冷蔵庫の買い替えを検討して欲しいとの要望を受けて、機器改善のために対応している。普段から意見を伝えやすい関係が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の実績や努力を法人に報告し、それをもとに毎年の昇給や賞与に反映されるよう積極的に働きかけている。また日頃から努めて有給休暇の取得や資格取得のための講習会への参加など気軽に行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	家族のような生活を理念でも唱っており、スタッフ同士でも幅広い年齢層や職歴の職員による家族のようなチーム作りを目指し、一人ひとりの特性を見極め生かせるよう心がけている。	地元のスタッフが殆どで、10年ほど勤務しているスタッフも、まだ勤務年数が浅い人も、一緒に現場の繋がりが強いことを話しており、入居者のために必要な支援をお互いと言える環境ができている。所長自ら現場スタッフを、気遣いねぎらうことを忘れずに接していて、信頼関係が築かれている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	高齢者の人権、権利擁護、成年後見制度、虐待防止、身体拘束排除を関連づけて定期的に勉強会を行い再確認を促している。	事業所内で年間計画をたて、各項目ごとに研修が行われている記録を確認した。地域の方に向けて、認知症の方への理解を深めてもらうキャラバンメイトになっているスタッフもいる。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけスタッフ全員に勉強会や研修会への参加を割り当て、スタッフ自ら希望した研修会への参加も費用を支給して積極的に参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの連絡会や交流会等に定期的に参加しており、それらを通して交流会や勉強会、見学会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人・ケアマネジャー・チームで面談を行い、本人としっかりコミュニケーションを図り、困り事や不安、要望等に耳を傾け、本人の安心確保につながる信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず家族・ケアマネジャー・チームで面談を行い、家族等としっかり話をした上で、困り事や不安、要望等に耳を傾けると共に、その後も密に連絡を取り合い、信頼関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には必ず本人・家族・入居前に利用しているサービス事業者・ケアマネジャー・チームで面談を行い、より多くの情報収集に努め、ケアマネジャーを中心に、的確な支援の見極めに努め、必要に応じて他のサービスも紹介している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	献立書きや洗濯物たたみ、カーテンの開け閉めや庭の草取り、花の水やり等、それぞれの入居者と共に行える活動を取り入れ、各入居者にも役割があると意識して頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、積極的に家族へ面会や外出、外泊、電話等を促すと共に、家族参加型の行事等を開催する事で、本人と共有する時間を作って頂ける様支援している。又、提携病院以外の受診については、家族へ送迎・付き添いを依頼し、家族への支援協力を図っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人・知人等の面会や電話等について、キーパーソンの了解を得た上で受け入れている。日頃よりドライブ等で馴染みの地域や自宅周辺にお連れしている。地域の盆踊りにも毎年参加し、馴染みの関係維持に努めている。	入居前に地域サロンに通っていた方は、今までどおり週1回の利用が出来るように支援していた。ドライブで出かけた時には、入居者が知っている道順や店の話をしたりして、なるべく馴染みある会話を心がけている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつをリビング・談話室で皆で食べる体制をとり、毎日皆で行う活動の時間を設け、孤立せず、それぞれが支え合える様支援している。又、入居者同士の関係を把握した上で、必要があれば職員が間に入る等の工夫をし、入居者同士の交流、関係維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には必ず、どのような事でも構わないので、いつでも気軽に相談して頂く様声掛け、促しを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人に担当者を設け、本人や家族とこまめにコミュニケーションをとると共に、遠方の家族とも電話・メール・手紙等の方法を駆使して連携を図りながら、希望や意向の把握に努めている。	入居時の本人・家族の意向を基に、入居後の日々のやりとりの中から、意向の把握に努めている。個別活動報告書には、詳しく観察した様子が記入されていた。家族来所時には近況を伝え、家族の思いも引き出せるような声かけや、気軽に話しかけてもらえるような雰囲気作りを意識している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や、入居前に利用していたサービス事業者からの情報収集はもとより、入居後も課題、問題点を抽出しながらケアプランに反映している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の暮らしを時系列の形でケース記録にその都度細かく記載すると共に、月1回職員間で話し合いの場を設け、情報の把握、共有に努め、日々の暮らしに取り入れている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネジャーを中心にケアカンファレンスを開催し、本人・家族・関係者等の意見を求め、現状に即した介護計画作成に努めている。	ケアカンファレンスでは、担当者・ケアマネジャーが中心になり、本人・家族・スタッフからの意見をまとめて計画書を作成している。スタッフの問題意識も高く、細やかで柔軟な計画が立てられている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の訴え、家族からの意見・要望、職員の気づき等を記入する欄を設ける事で、情報の共有、ケアの改善等に活かし、すぐに対応出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等によって生じるニーズに対して話し合い、その都度柔軟に対応出来る様心がけている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア・シルバー人材センター・小中学校等に協力を求め、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂ける様努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族にかかりつけ医について希望を伺うと共に、連携に努め、適切な医療を受ける事が出来る様支援している。	大半は母体病院がかかりつけである。入居前のかかりつけ医や他科を希望する場合は、家族あるいはスタッフによる受診支援を行っている。歯科往診を利用している入居者もいる。受診時は事業所での様子を報告し、医師からの指示や処方変更などは、家族への報告と共に、スタッフ間で情報共有できている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、グループホームの看護師とこまめに入居者の情報・気づき等を伝達し合い、日々情報の共有・相談を行っている。又、受診の必要性やケアに関するアドバイス等についても相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には、病院への情報提供を行っている。又、入院後もこまめに面会に赴き、情報の共有に努め、退院前にも必ず経過把握・情報共有の為の面談に赴き、退院の備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について指針を示し、本人・家族の同意を得ている。又、本人・家族の意向を大切にしながら、早い段階から医師・看護師・職員等の関係者間で話し合いをもつ様になっている。対応困難な際には、本人・家族と話し合い、適切なサービスを受ける事が出来る様努めている。	重度化に伴い、入居継続の困難が予想される場合は、それ以前の早い段階でキャッチし、関係者の意見を聞き本人や家族と何度も話し合い、母体病院や希望する施設等に紹介している。今までに看取り事例はない。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の全体会議にて、事故発生時や急変についてのカンファレンスを行い、情報の共有、並びに早期の対応・対策の検討・実施に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下、年2回の昼夜を想定した避難誘導訓練を実施している。又、自治体主催の福祉避難所ネットワークにも加盟し、災害時の避難受け入れ施設としても登録している。	避難訓練はどんな時にも迅速に対応できるように出火場所や場面の想定を変えて行っており、経験年数に関わらず、緊急時の対応が適切にできるようにベテランスタッフが指導している。水・食料などの備蓄もされており、母体病院との連携システムが構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、適切な言葉遣いや接し方を目標に掲げ努めている。又、トイレや入浴は出来る限り同性介助を心がけ、安心して頂ける様にしている。個人の記録等は人目につかない様に保管・管理し、プライバシー保護に努めている。	入居者の尊厳を一番に考え、スタッフの言葉遣いや態度には特に気をつけている。関わり方が適切かどうかの自省を促す標語が目立つところに貼ってあり、スタッフ同士が互いに指摘しあえる関係作りも大切にしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりに希望や思いを気軽に言って頂ける様、又、自己選択や自己決定を引き出せる様な声掛け・雰囲気作りに努めている。希望に対しては、入居者と職員で話し合い、入居者の理解を得た上で支援を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事・活動等において、その都度声掛けを行い、無理強いをせず、一人ひとりのペースに合わせてると共に、曜日や時間等も一緒に決めている。買い物等もそれぞれの希望に沿った対応が出来る様、職員間の連携にも努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを行う際には一緒に選び、時期に合わせた衣替えも行っている。定期的に爪切り・髭剃り等も行くと共に、外出時には外出に適したおしゃれをして頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力に合わせ、献立書き・お茶葉詰め・配膳・下膳を一緒に行っている。又、庭で野菜の栽培・収穫を一緒に行い、食への関心や楽しみ、季節感を味わって頂ける様支援している。職員も検食を兼ねて一緒に食事を摂り、楽しい食卓となる様努めている。	当日の昼食は、地元食材を使ったちらし寿司が彩りよく盛りつけられ、ほぼ完食していた。食器は陶器にこだわり、食べこぼしがあってもエプロンを使わずに食事できるようにと、さりげなく介助がなされている。スタッフは、メニューや食材の話題を会話の中に入れ、食への関心を引き出していた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に相談・指導の下、バランスの摂れた食事を個人に合わせた食事形態で提供している。毎日の食事量・水分量をチェックすると共に、必要に応じて高カロリー食・OS-1ゼリー・ポカリゼリー等を提供し、栄養・水分の確保に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の緑茶でのうがいを実施すると共に、毎食後の個人に合わせた口腔ケア、毎晩ポリデントによる義歯洗浄を行っている。必要に応じて義歯用ブラシ・スポンジブラシ・口腔ケア用ジェルも使用している。こまめに口腔内を観察し、必要に応じて歯科往診も利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居後の日々の観察並びに排泄チェック表を用いて、入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、昼夜共にトイレ誘導の声掛けを行い、羞恥心・自尊心に配慮した排泄支援を実施している。	『いつでもトイレで排泄する』を大原則として、水分摂取量・運動・食事内容・薬剤減量などに特にこだわり、詳しく記入された排泄チェック表から排泄パターンを把握し、タイミングの良い誘導や声掛けで、スムーズにトイレで排泄できるように支援している。入居前の紙パンツから布パンツに戻せた事例もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常時排便チェックを行い、便秘傾向の方にはホットパック併用での腹部マッサージの実施や、散歩や歩行運動機械の使用を促している。又、乳製品や食物繊維を多く含む食品の提供等、飲食物の工夫にも力を入れ、自然排便を促している。必要に応じて主治医や看護師に相談している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者本人に入浴の頻度や曜日等の希望を聴いて入浴日を決定している。入浴日には必ず事前の声掛けにて入浴確認を行い、拒否や時間変更の訴えがあれば、本人の希望に沿う様柔軟に対応している。又、入浴前には必ずバイタルチェックを実施し、特変等あれば無理をせず、入浴日を変更している。	入居時に聞き取った希望を基に予定表を作成するが、体調や気分などにより変更あった場合でも問題無く対応できている。浴槽はやや広めの個浴で、手すりなどの安全グッズも整備されている。基本的に同性介助で入浴の支援が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握した上で、寝具・室温・照度等の環境面にも気を配り、安眠に繋がる環境作りを心がけている。又、状態に応じて昼寝等も促している。夜間不眠時等の際には、将棋や会話・お茶等をしながら職員が傍に寄り添い、不安の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルをリビングに設置し、各職員が薬を理解・把握出来る様にしている。毎日の薬セット・与薬時には必ず職員2名によるダブルチェックを行い、安心できる服薬支援に努めている。処方薬変更時や状態変化時等の際には、特に入居者の様子をこまかく観察し、随時主治医等に報告・相談している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で行う毎日の体操・レクリエーションや、洗濯物たたみ・献立書き・カーテン開け・新聞綴り等の個別活動を実施し、習慣的役割を持って頂ける様支援している。又、花や野菜と一緒に育て、草取り・水やり等を行い、季節を感じながら育てる喜び・達成感を持って頂ける様努めている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的のみならず、入居者の希望に応じて可能な限りドライブ・散歩・散髪・買物等にお連れしている。又、外出行事や地域行事、病院・他施設の行事にも積極的に参加している。御家族には、ゴールデンウィークや盆、正月等の外出・外泊も促している。	身体を動かすことと戸外に出る事は日常の当たり前の行動と受け止め、季節や行事関連だけでなく、希望があればいつでも対応できるようにしている。理美容についても業者に来てもらうのではなく、「出かけて気分を変える」ことを意識している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の金銭は当グループホームにて管理をしていると共に、入居時に当方の立て替えにて少額の金銭使用了解を事前に家族に頂き、買い物等をして頂いている。高額な買い物等は都度家族に相談した上で対応している。一部の入居者では小遣い制をとり、小遣い帳を用いて職員と一緒に金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や状況に応じて、家族や友人との電話や手紙のやりとり等が出来る様支援している。毎年、家族宛での年賀状を書いて頂く支援も行っている。電話については、周りを気にせず気軽に使って頂ける様静かな場所に設置し、話せる環境を作っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・玄関先には四季の花を植えて飾り、廊下には行事の写真を掲示し、室温は不快感の無い様こまめに調節している。リビングにはくつろいで頂ける様ソファ・テレビ・ラジカセ等を設置し、談話室にもテレビ・新聞・マッサージチェア・本棚を設け、自由に楽しめる空間作りに努めている。	共用空間であるトイレやフロアは、希釈した漂白剤で毎日拭き上げられ不快な臭いが無く、室温も調節されていた。居室前の廊下は、入居者とスタッフによる季節のちぎり絵や行事写真などで飾られており、ユニットごとに味わいのあるコーナーとなっている。畑仕事や花作りができる庭、ベランダでの洗濯物干しなど、入居者に役割を發揮してもらえる家庭的な造りになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子・ソファ・テレビ等の配置を入居者と話し合うと共に、入居者間の関係性を踏まえた上で、一人ひとりの沿う様に努めながらより良い共有空間作りを図っている。談話室も二か所設け、自由にくつろいで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と話し合いながら、使い慣れた家具や思い出の品、好きな物等を持ち込んで頂き、居心地の良い居室作りに努めている。又、大切な人・家族との思い出の写真、行事等で作成した品を飾り、家庭的な空間となる様工夫している。	居室は入居者の持ち込んだ家具や思い出の品が整理整頓されて置かれている。家具の上や壁には、行事に参加した笑顔いっぱいの写真や作品が飾られており、温かい雰囲気が出ていた。やや広めの居室からドアを開けると、窓の外の田園風景が目飛び込んで開放感が十分感じられる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には赤い手すりを設置して分かりやすく、又、トイレの鍵や蛇口は入居者が簡単に操作できるようにしている。居室の入り口には居室番号を大きく表示し、トイレの入り口にも大きくトイレの文字を表示する事で、新しく入居された方でも迷わず安全に生活して頂ける様工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077200147		
法人名	医療法人社団 桜珠会		
事業所名	グループホーム可也 桜の里		
所在地	〒819-1314 福岡県糸島市志摩師吉901-3		
自己評価作成日	平成28年8月1日	評価結果確定日	平成28年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/40/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyousoCd=4077200147-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階
訪問調査日	平成28年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日、全ての入居者に対して職員は挨拶をして必ず関わりを持つと共に、声掛けや接し方に力を入れ、笑顔が絶えない明るく家庭的な雰囲気づくりを目指している。又、昼夜を問わず、積極的にトイレの声掛け・誘導を実施し、心地良いトイレでの排泄が出来る様努めている。職員側では、日頃からこまめに話し合いの場を設け、情報の共有並びにチームワークの構築に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会生活の中での孤立や孤独を味わうことのないよういつもそばにいて、少しの変化も見落とさないよう家族のように寄り添うことを中心に考えた理念をスタッフと共に作った。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の福祉体験授業の受入れにより地域の子供たちとの交流を行ったり、地域行事や地域の他施設行事への参加などを行い地域への交流に努めている。また年末のご近所への餅配りは定例化している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉授業やキャラバンメイトの講習会を通して認知症への理解を働きかけたり、当施設への入所だけでなく、在宅維持へのアドバイスを行ったり、困った時は気軽に相談してもらえるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での議題はスタッフ全体会議などに連動させ共通議題とすることで意見や提案、改善内容などをサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の事業所連絡会や部会等により社協や包括および市町村担当者と頻りに顔を合わせる事ができ、相談もしやすい。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成 身体拘束ゼロの手引きを掲示し拘束にならないケアについて常にスタッフ全体会議等で話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待に関する勉強会を行い、高齢者の人権について考える機会を設けている。またスタッフのストレスが虐待につながるようスタッフの些細な変化に気を配るよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	高齢者のプライバシーと人権、成年後見制度と権利擁護についてスタッフ全体会議でスタッフの理解が深まるよう勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までには十分に時間を取り面談等を行い気軽に何でも相談してもらえる関係作りに重点を置いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から何でも話せるような関係作りにつとめており、苦情になる前の問題の早期発見と解決を心がけている。運営推進会議や感謝祭等で様々な意見の交流を図っている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族同様管理者とスタッフも日頃から何でも話せるような関係作りを目指しており、スタッフ全体会議だけでなく直接電話で相談された内容にも対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の実績や努力を法人に報告し、それをもとに毎年の昇給や賞与に反映されるよう積極的に働きかけている。また日頃から努めて有給休暇の取得や資格取得のための講習会への参加など気軽に行えるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き活きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	家族のような生活を理念でも唱っており、スタッフ同士でも幅広い年齢層や職歴の職員による家族のようなチーム作りを目指し、一人ひとりの特性を見極め生かせるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	高齢者の人権、権利擁護、成年後見制度、虐待防止、身体拘束排除を関連づけて定期的に勉強会を行い再確認を促している。		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけスタッフ全員に勉強会や研修会への参加を割り当て、スタッフ自ら希望した研修会への参加も費用を支給して積極的に参加を促している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワークの連絡会や交流会等に定期的に参加しており、それらを通して交流会や勉強会、見学会等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の本人との面談にて、不安や困っている事などを聞き少しでも不安がなくなる様に努めている。また、入居まで担当した職員が対応し安心して頂ける様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談では、御家族にも参加して頂き、その際、不安や困っている事を聞き不安などに対し少しでもなくなる様に努めている。また、疑問などあればいつでも連絡して頂ける様にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どのような生活を送りたいか本人と御家族に聞き、本人の状態や状況をしっかり把握した上でその方に必要なサービスや援助を検討し対応していける様に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人生経験からの教を学ぶ事が多く、日々の生活の中でその場面作りが出来る様に努めている。一緒に過ごし、行い共感していくことで信頼関係を構築していける様に努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	担当職員は担当入居者の御家族に月1回は連絡や面会をし、本人の日々の生活の様子や状態を必ず報告している。本人の事を共に考え、一緒に支えていける様な関係を構築していける様に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族へは面会や電話、手紙などもその都度報告させて頂き、入居前に本人が築いてきた関係が途切れることがないように支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、リビングや談話室でゆっくりくつろいで関われる様にしている。一緒に物を作ったりして関わっていける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も本人や御家族からいつでも相談して頂ける様に、面会や連絡に対応出来るよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人1人に担当を設け、担当は利用者との関わりを多く持ちまた、御家族とは密に連絡を取り、本人や御家族の意向や希望を把握する様に努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族に入居前の生活や馴染みの事を聞き、入居前と変わらず生活出来る様に努めている。入居前の情報やサービス利用の把握に努め、入居後も不明な点があれば御家族やサービス事業所へ確認するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に変化を把握するため、細かい事もケース記録に記載し、状態の把握と共有に努めている。また定期的に職員間の会議を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者やケアマネージャーを中心にケアカンファレンスを開催し、本人や御家族の意向や希望、課題が反映された介護計画書を作成している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に本人の訴えや御家族からの要望、意見を必ず記入する様にし又、職員の気づきなどを記入する欄を設けケアの改善、ケアプランに活かしていける様にしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が御家族の状況、また主治医の指示などで生じるニーズに柔軟に対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、小中学校などの協力を求め地域交流により、入居者の方との繋がりを持ち安全で豊かな暮らしが出来、楽しく生活していける様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医のみならず、他医療機関への受診においても連携に努め、適切な医療を受けられる様に努めている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム看護師が出勤時に、処置を行い又、受信の必要性やケアについてもアドバイスを受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行いこな細目に面会へ行き、入居者のその時の状態の情報共有に努めている。退院時にも情報の共有に努め状態の把握に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について指針を示し、御家族の同意を得ている。本人、御家族の意向を大切にしながら医師や看護師、職員の関係者で話し合いを重ねている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の職員会議にて、事故報告を行い情報の共有、事故の対応策について話し合っている。また、勉強会も兼ねており職員の知識向上に努めている。外部の勉強会にも参加し実践報告、伝達講習を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回、夜間想定と昼間想定で実施している。また、可也病院と連携した災害マニュアルを全職員持ち、見直しもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者1人1人を尊重し、適切な言葉使いや接し方に心掛け、安心して過ごせて頂ける様に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自身の希望や要望など、職員だけで決定せず、本人に決めて選んで頂ける様な声掛けに心掛けている。また、希望や要望などを話しやすい雰囲気作りに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、その都度声掛けを行い、本人の希望に沿って1日を過ごして頂ける様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、入居者と共に衣服を選ぶように支援している。化粧をしたりとオシャレが楽しめる様に支援している。また、定期的に散髪にお連れしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニュー書きや盛り付けを一緒に行なっている。また、季節の行事に合わせたメニューになっており、食事でも季節を感じて頂ける様なメニューになっている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に合った食事形態になっており、1日のカロリーも栄養士の管理のものとメニューになっている。1人1人の表を作成し、1日の食事量や水分量をまとめ全職員が把握できるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の食事前にはうがい、食後はスポンジ歯ブラシにて口腔ケアを行っている。また、毎晩ポリドントにて義歯の消毒を行い、義歯の清潔が保てるようにしている。夕食後にはリフレケアを使用し口腔内の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせRHパンツやパットを使用している。排泄チェック表を使用しRHパンツやパットの検討を行うと共に、排泄の間隔を把握しできるだけトイレで排泄が行える様に声掛けや誘導を支援している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便の間隔や状態を全職員が把握し、ホットパックや腹部マッサージを行っている。また、乳飲料などで飲み物に工夫し自然排便が出来る様に支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前には血圧を測り、その日の状態を把握してから入浴してもらっている。本人の希望にそって午前や午後のどちらでも入浴が出来る様に支援している。また、本人の希望に沿って入浴日を変更している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや希望に沿って、日中も休んでもらえる様に支援している。夜間の睡眠状態に応じて起床時間も本人のリズムに合わせている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬は全職員が把握できるようにファイルにまとめている。服用の際は、直接口に入れ飲み込み確認を行っている。変更の際は副作用の把握をし内容によってはバイタルチェックなど1日数回行い状態変化の把握に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや盛り付けなど状態に合わせて入居前からの生活で行ってきた事を入居後もして行ける様に支援している。また、散歩やドライブ、行事などで楽しみや気分転換が出来る様に支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状態に合わせて外出の支援をしている。本人の希望に沿って出掛ける場所を決める様にしている。御家族には外出や外泊などの声掛けを行い協力して頂いている。お店の協力も得て、外食の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などで一緒に出掛けた時の支払いの際は、本人の状態や状況を見て出来るだけ入居者の方にして頂ける様に支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望したら電話を出来る様になっている。また、年賀状は担当職員と共にではあるが毎年書いて頂き、職員だけではなく本人にも記入して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには各季節に合った貼り紙をしたり、毎月その月に合った手作りのカレンダーを壁に貼る様にしている。廊下には毎月の写真を貼り、明るい雰囲気になる様に工夫している。毎日フロアの掃除を行い入居者の方が不快に感じる事の無い様に努めている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの横には談話室を設けており、好きな時にいつでも談話室で過ごして頂ける様にしている。ソファーにて横になって頂いたり、入居者同士でゆっくり過ごして頂けるよう心掛けている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明で御家族と本人へ使い慣れているものの持参を勧める様にしており、家具の配置なども本人と御家族の意向を聞き、本人が過しやすく生活出来る様に努めている。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアにあるドアには分かりやすい様にトイレや浴室と記入をし入居者の方がすぐわかる様にしている。また、各居室には居室番号をドア付近に貼ったり、名前を貼り、入居者が自分の部屋と分かりやすい様にしている。		